特別史跡：熊本城

熊本城は、その規模と荘厳さに、白と黒を基調とした独特の色使いが相まって、日本三大城の一つに数えられています。1588年に加藤清正（1562-1611）が肥後国北部（現熊本県）の領主となったとき、現在の城域の南西部にはすでに城がありました。加藤清正は、1599年に茶臼山で新しい城の築城に着手し、1600年には大天守を完成させました。1607年に最初の築城が完了した熊本城は、天守1基、櫓49基、櫓門18基、城門29基、周囲5.3kmの城郭を備えていました。その数十年後には小天守が完成しています。城は1877年の西南戦争や、1889年と2016年の2度の大地震を耐え抜きました。現在、大規模な修復工事が行われています。